

色々なことがありました！

これまでのイベント

連続講座 第1弾

4月29日(土)に、三次市民ホールきりりにおいて、妖怪研究家の湯本豪一さんをお招きし、「日本の妖怪」入門編としてご講演いただきました。



湯本先生と学芸員の対談形式で、素朴な疑問を湯本先生にお聞きしました。市内外から64名の参加者がありました。中には妖怪好きな子どもさんも。

湯本先生のコレクションに興味津々のみなさん。この日展示したコレクションはほんの一部、これからも様々なコレクションをご紹介します！



連続講座 第2弾

5月21日(日)に、奥田元宗・小由女美術館において、「稲生物怪録の世界」として植田千佳穂館長の講演がありました。



同じ物語を記したもので、登場人物(妖怪)の表現方法の違いや、文章が中心となっているもの、絵が中心の絵巻など、様々な形で伝えられ、現代まで生き続けている、稲生物怪録の独自の世界をお話くださいました。

Miyoshi Art Project ひゅうーどろどろそうそうのやしき

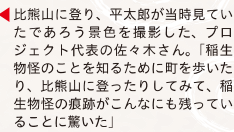
三次町において東京藝術大学学生による滞在制作と展覧会が開催されました。

日本妖怪博物館の開館に興味を持った三次市出身の佐々木創さんを中心に、6名の学生が三次町の古民家に滞在し、作品を制作・展示しました。

- ◆公開制作：5月3日(水)～11日(木)
- ◆展覧会：5月12日(金)～15日(月)
- ◆会場：滝戸工芸 ほか(三次町)



中国からの留学生、王さんの作品は、「稲生物怪録」に登場する4日目の妖怪「紙の舞い上がる怪」にヒントを得たそう。窓からは比熊山が見え、心地よい風が入ってきていた。



比熊山に登り、平太郎が当時見ていたであろう景色を撮影した、プロジェクト代表の佐々木さん。「稲生物怪録」のことを知るために町を歩いたり、比熊山に登ったりして、稲生物怪の痕跡がこんなにも残っていることに驚いた！



神谷さんは、持参した医療器具と、三次町をまわって集めた古い器で、「水琴窟(すいきんくつ)」を制作。

「三次は自然と暮らしの境界線がなく、自然がすぐ近くにあると感じた。都会には作られた自然があるが、ここはそのまの自然が残っている」と神谷さん。



～妖怪を生かした文化・観光まちづくりをめざして～

もののけだより

vol.1 平成29年6月

～三次地区のにぎわい再生～

文化会館跡地を核とした「みよしまるごと博物館」事業の推進について

三次地区の旧文化会館跡地の利用方法について、平成23年から三次地区の住民自治組織の構成団体代表等と構成する「三次地区のまちづくりを考える会」で議論されてきました。これを踏まえ、「(仮称)湯本豪一記念日本妖怪博物館(三次もののけミュージアム)」と「交流棟」の2つの建物からなる拠点施設を建設し、これを核に地区の歴史・文化・自然資源を活用したまちづくりを進める予定です。

「もののけだより」では、その事業等の概要やねらい、関連する取組等についてご紹介していきます。



日本妖怪博物館

交流棟

妖怪の世界・魅力に
ふれてみませんか？

これからのイベント

もののけものがたり I

日時：7月9日(日) 14時～17時
会場：三次ふれあい会館
内容：映画「ももへの手紙」上映



稲生もののけ落語

◆浮沼亭冷奴 ◆布野子ども落語メンバー(予定)
浮沼亭冷奴さん: 升井紘さん。三次市在住。「稲生物怪録」を題材とした創作落語で、地域で子ども落語教室を開催するなど、三次市を中心に活動中。

連続講座 第3弾

日時：7月15日(土) 14時～15時30分
会場：三次市民ホールきりり サロンホール
内容：講演会「稲生物怪録入門(概論)」(仮)
講師 安田女子大学名誉教授 杉本 好伸さん

プラネタリウム

「妖怪ウォッチ ～プラネタリウムは妖怪がいっぱい!」
上映期間：7月4日(火)～1年間
会場：ジミー・カーターシビックセンター

横谷神楽団「稲生平太郎」上演

日時：7月8日(土) 20時～
会場：三次町 専法寺境内
内容：三次町七夕夜市(17時～21時、実行委員会344プロジェクト主催)のイベント内での上演

もののけものがたり II

三次物怪まつり(物怪プロジェクト三次主催)に合わせて開催します。
日時：8月26日(土)
会場：三次町 三次商工会議所
内容：講演 旭堂南陵さん
落語 浮沼亭冷奴・布野子ども落語メンバー

みんな来てね!



ごあいさつ

三次地区は、古来、川を利用した舟運や、石見街道「銀の道」等、陰陽を結ぶ交通・物流の要衝として栄えてきました。三次藩の藩庁も置かれており、多様な歴史・文化資源が存在する地区です。その中でも、「稲生物怪録」として伝わる物語は、江戸時代、文化人を通じて全国に広がりました。その後、文学、民俗学等の題材として研究されるほか、文学作品や漫画等の素材として多くの著名人に取り上げられている郷土の誇る文化・歴史的財産です。

平成23年以来、三次地区に残る文化・歴史遺産や自然景観を生かして観光客を呼び込み、にぎわいを取り戻そうとするまちづくりについて模索していたところ、妖怪コレクターであり民俗学者でもある湯本豪一先生が、長い年月と私財を投じて集められた日本一と言われる妖怪資料コレクションを、全て無償で寄贈いただけることになりました。

本市といたしましては、これを千載一遇のチャンスと捉え、「日本」を名乗る妖怪博物館を含めた拠点施設を整備し、三次地区のまちづくりの拠点となればと考えております。現在多くの観光客を呼び込んでいる酒屋地区との連携を図りながら、新たな観光や交流を生み出す仕組みを作っていきます。

「稲生物怪録」は、もののけオペラをはじめとして、神楽「稲生平太郎」、小学生による落語、高校生のキャラクターデザインなど、もう既に市内の幅広い年代の文化活動にも展開されており、個性ある親しみやすい題材として大きな魅力を持っていると思っています。湯本豪一先生のコレクションとあわせて、「妖怪」を活用した文化、観光の振興やまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。市民の皆さんのご理解、ご協力、ご参加をお願いします。

三次市長 増田 和俊

【問い合わせ】三次地区拠点整備事業プロジェクトチーム

事務局 三次市政策部特命担当 TEL: 0824-62-6408 FAX: 0824-62-6137

日本妖怪博物館で伝えたいこと

①稲生物怪録ってどんなもの？

稲生物怪録は、江戸時代後期に実在した広島藩士の稲生武太夫（1734～1803）が、三次で平太郎と名乗っていた少年時代に体験したとされる物語です。30日間にわたり出現する様々な妖怪や怪異に耐え抜いたという物語です。

江戸時代を代表する国学者平田篤胤^{あつたね}に高い評価を受け、全国的に伝えられました。博物館では、市内に残る絵巻や湯本コレクションに含まれる資料を展示するとともに、オリジナリティあふれるそのストーリーや物語の変化などを紹介します。



稲生物怪録 全国分布図



湯本豪一コレクションより「絵巻」

②いつの時代にも妖怪は人の心を映すものとして 人々の心や生活の中に生きてきました

昔から人々は、心の不安や闇に感じる気配、自然に対する畏怖^(※)から、それらを名付けたり、形を与えたり、信仰するなどして妖怪を生み出し、恐れながらも生活に受け入れ、今日に伝えてきました。

今回寄贈された約 3,000 点にのぼる「湯本豪一コレクション」では、妖怪の姿が描かれた絵巻物や、版画技術の発達した江戸中後期の錦絵^(しきゑ)（浮世絵）、印刷技術の発達した明治から昭和期の子どものおもちゃ等、形を変えながら広く人々に親しまれてきた多種多様な妖怪文化の広がりをご覧ください。

(※) 畏怖…いふ。恐れ敬う気持ち。



「北斎百物語」葛飾北斎



「丸メンコ」



「河童根付」

湯本豪一コレクションより

③妖怪を通じて人々の創造の可能性を示し、活動を支援します

妖怪は現代でも小説やアニメ、ゲーム等の題材としてたえず使われ続けており、特に海外で評価の高い日本のサブカルチャーの中心的な存在となっています。

今も昔も人々の心の中を映し続けてきた妖怪は、人間の創造の可能性を示すうってつけのアイテムです。

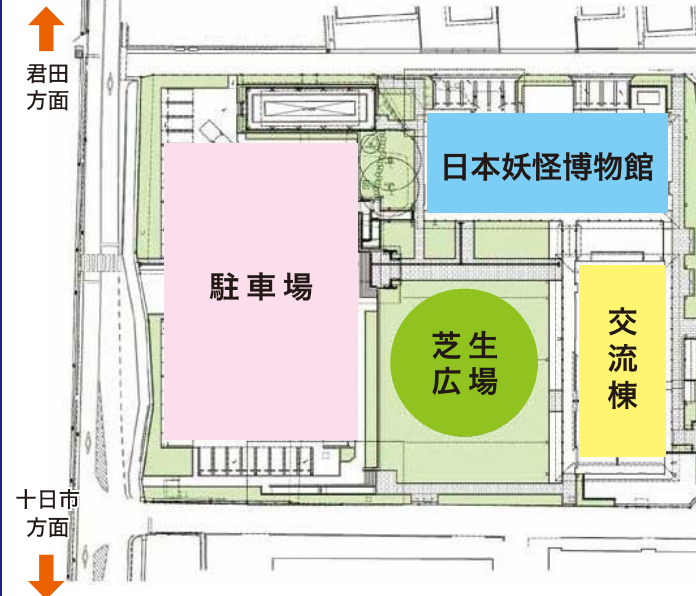
「湯本豪一コレクション」の中にも、妖怪から刺激を受けた葛飾北斎、歌川国芳、伊藤若冲など名だたる芸術家の作と伝わる資料やゆかりの品があります。

これらの貴重な資料を展示・活用し、博物館を子ども達の豊かな創造力をはぐくむ場にと考えています。また、学校や企業、地域の方々とも連携して、妖怪を通じた芸術・文化活動をサポートし、「まちづくり」の一翼を担っていきます。



創作合唱オペラ「いのものかけ」

三次地区拠点施設完成イメージ 平面図



交流棟の役割

①三次地区の文化・観光まちづくりの拠点です

三次浅野藩があった三次地区には、ゆかりの物や、逸話、また、商業で栄えた町並みや三次人形など、見て、学べて、くつろげる場所がたくさんあります。

この施設は、三次地区のまち全体を博物館に見たてた「みよしまるごと博物館」の拠点施設として、整備します。



②来訪者をまち歩きに誘う中継地です

駐車場、トイレ、レンタサイクル、ガイドマップなど、来訪者が博物館だけでなく、広く「三次まるごと博物館」の町並みを歩いてまわるためのサービスを提供します。

また、まちに興味を持ってもらうために、三次地区の歴史や現在の見所等を PR するとともに、ガイドの受付やお土産の販売、飲食の提供等を行います。



③三次市全域への周遊拠点の1つとして位置付けます

三次地区での文化・観光まちづくりを支援するとともに、三次市全体の観光交流を促進する組織(三次版 DMO)を配置します。

市内の観光施設と三次地区との観光周遊が進むような取組や案内も行います。

